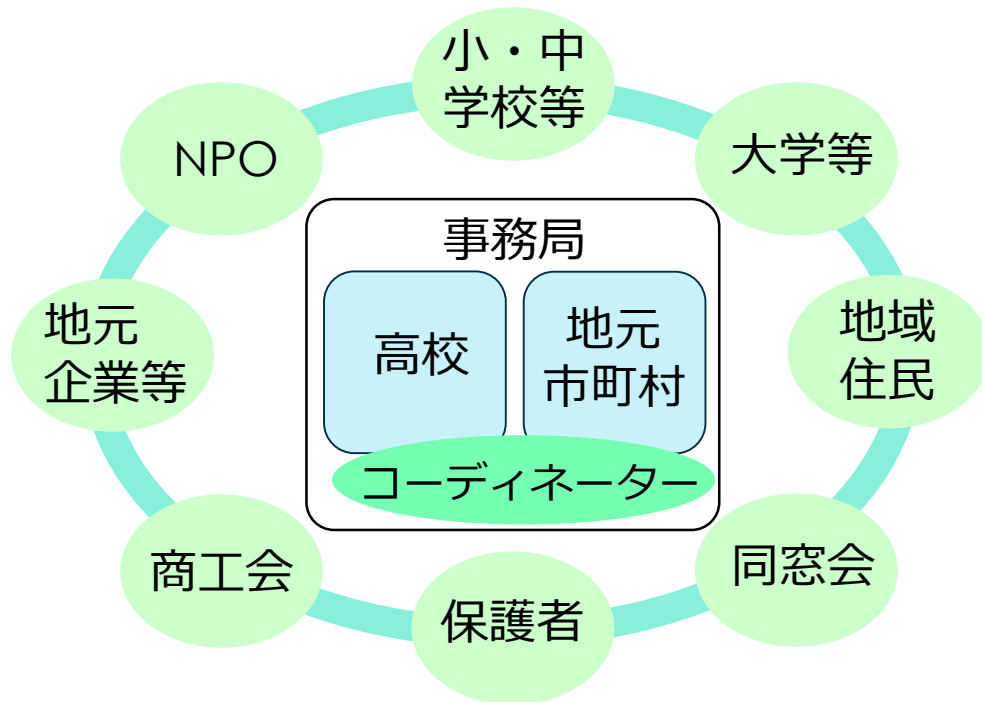


魅力ある学校づくりに向けた 取組に係る参考資料

熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課

○市町村とともに、県立高校における地域との協働体制(高校魅力化コンソーシアム)の先導モデルを構築し、その知見等を県内で広く共有することで、地元市町村等と力を合わせた県立高校の魅力づくりを実現させる。

高校魅力化コンソーシアム



学校運営の基本方針：学校、市町村、関係団体の代表等で策定

学校運営・教育活動：学校、市町村、関係団体の構成員等で
魅力ある学校づくりに向けて協働

＜期待できる効果＞

- ① **ビジョンの共有化が図られ、目指すべき方向が明確化**
- ② **属人的ではない、持続可能な地域との協働体制構築**
- ③ **地域課題の共有、地域資源の有効活用による高校の魅力化や地域が求める人材の育成 など**

＜想定市町村（6 枠〔7 市町8 校〕）＞

- 一市町一校(4枠)：天草市(牛深高)、御船町(御船高)
山都町(矢部高)、あさぎり町(南稜高)
- 一市複数校(1枠)：玉名市(玉名高、玉名工業高、北稜高)
- 複数町一校(1枠)：小国町・南小国町(小国高)

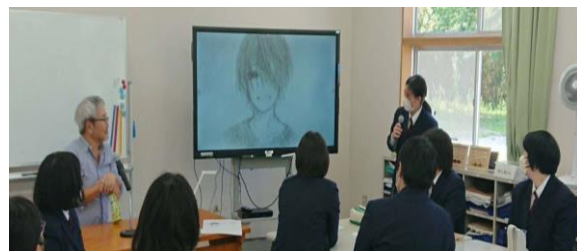
地域との連携協定に基づく特色ある学びの推進

○社会や地域、生徒のニーズに応える学科等の設置
生徒の多様な進路希望や能力、関心、ニーズに対応

○地域の期待に応える魅力ある学校づくり
地域と学校が一体となって地域の将来を担う人材の育成を推進

【主な取組事例】

①公立では全国初！R5高森高校にマンガ学科設置



高森町、(株)コアミックス、高校、県教委が連携し、「マンガ」を活用した高森高校の魅力向上に取り組む(R3.9連携協定締結)

②R6天草工業高校にCGデザイナー育成カリキュラムを導入！



天草市、(株)ORENDA WORLDと連携し、即戦力として活躍できるデジタルアート人材を育成(CG系列・R6年度から)

天草市の魅力化と天草工業高校の魅力向上に関する連携協定締結式(R5.3)

③全国初の半導体情報学科をR7水俣高校に設置！



R5.11 水俣高校協定締結(水俣市・アスカインデックス)



アスカインデックスのクリーンルームでの水俣高校の実習の様子



半導体に関連する学びの充実

④スマート産業を学ぶ新学科と探究科をR7阿蘇中央高校に設置！



【新学科】

- ・スマート農業に取り組む農と食の科学科
- ・緑と水の科学科
- ・探究的な学習を柱とする探究科

阿蘇市と共にスマート産業人材育成のための連携協定締結



福祉分野(左上)
R6.7
商業分野(右上)
R6.6
農林業分野(下)
R6.7

- 令和2年度に外部有識者からなる「県立高等学校あり方検討会」を設置し、令和3年3月に受けた提言では、先進的な科学技術やIT技術、マンガなどの新たな学科等の設置検討について示され、高森高校マンガ学科をはじめ、水俣高校半導体情報科や天草工業高校CG系列など地元企業等と連携した特色ある学科やコース等を開設してきたところ
- 地元企業などと連携した他にない唯一無二の学科・コース等を開設した高校において、専門的な授業が受けられるように学習環境を整備することで、学びの充実による「高校魅力化」を図るとともに、専門的な知識・技術を持ち、地域に必要とされる「くまもとで働く人材育成」にもつなげる

<現状・課題>

<現状>

○令和2年度～令和6年度の期間は県立高校の魅力化に取り組み、近年では主に以下のような学科改編等を実施

R5年度:高森高校マンガ学科

R6年度:天草工業CG系列

天草拓心・(株)Senjin Holdings・
天草市・商工会と協定締結

R7年度:水俣高校半導体情報科、建築科
阿蘇中央高校農と食の科学科他



<課題>

高森高校マンガ学科

- 特色ある学びの実現に向けた学習環境整備(機材等の準備)が必要
- 持続可能な取組みとするためには、連携企業からの専門講師派遣が不可欠
- ふるさと納税の受け皿となる事業が必要

<事業概要>

○全体事業費:31,761千円

○事業内容:

①高森高校学科改編(16,476千円)

(株)コアミックスと連携したマンガ専門授業の実施

・マンガ学科開設・普通教室棟等整備に伴う学習環境整備

・(株)コアミックスへのマンガ専門講師派遣委託

②水俣高校学科改編(5,049千円)

(株)アスカインデックスと連携した半導体専門授業の実施

・(株)アスカインデックスからの半導体専門講師派遣

③天草工業高校CG系列(1,470千円)

(株)ORENDA WORLDと連携したCG(コンピューターグラフィックス)専門授業の実施

・天草工業CG系列の学びに必要なソフトウェアの導入

④阿蘇中央高校学科改編(5,000千円)

(株)中九州クボタ等と連携したスマート産業専門授業の実施

・学科改編、単位制導入を行ったことによる学習環境整備

⑤天草拓心高校商業科連携授業(3,766千円)

(株)Senjin Holdingsと連携したSNS マーケティングの実践

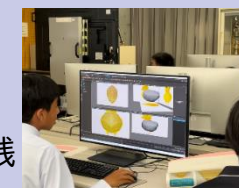
・(株)Senjin Holdingsへの講師派遣・SNS運用管理委託

○負担割合:県10/10 ○事業主体:県

○事業期間:R7年度～



半導体の実習



天草工業CG系列の授業

- 県立高校の高校生が、熊本県内の企業や産業を知ること、県内企業の魅力や働くことの意義を学び、自らの興味・関心や適性に沿った進路を選択する力を身に付けることが求められる。
- 高校生が地域社会や地域産業と関わりを持つことで、就職先としての県内企業に興味を持つ生徒の増加が期待される。

<現状・課題>

- 県外の大学に進学する生徒が一定数
在籍している普通高校では、インターンシップの実施率が低く、県内企業を知る機会があまりない。
- 専門高校においては、インターンシップの実施率が高く、県内産業への理解も進んでいる。しかし、県内就職率については、上昇傾向にあるものの一層の取組が必要。

<事業概要>

- 全体事業費：23百万円（県事業費：11百万円）
- 事業内容：
 - ① 普通科インターンシップ等充実事業（拡充） 5,499千円
 - ② 専門高校インターンシップ等充実事業（継続） 5,312千円（県2,656千円）
 - ③ キャリアプランニング推進事業（継続） 3,974千円（県2,912千円）
 - ④ 熊本県版マイスター・ハイスクール事業（継続） 8,000千円（県 0千円）
- 事業主体：県 ○ 期間：令和6年度～
- 負担割合：① 県10/10 ② 県1/2、国1/2 ③ 県2/3、国1/3 ④ 国10/10

② デジタル田園都市国家構想交付金

③ キャリア教育推進事業費補助

④ マイスター・ハイスクール（次世代地域産業人材育成刷新事業）

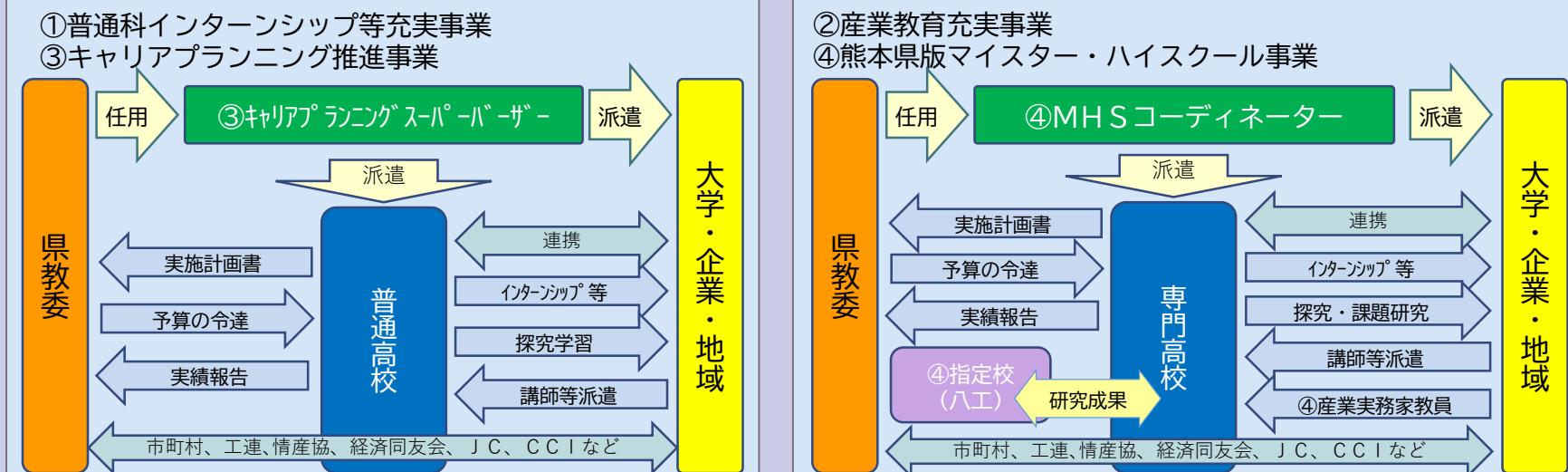
【喫緊の課題】

- 普通科生徒の県内企業を知る機会の創出
- 高校段階における産業教育の更なる充実

【目指す姿】

- 高校生が自らの進路について考え、自己決定できる。
- 本県で学んだ生徒が、県内企業で活躍する。

【事業概要図】 ※キャリア教育充実のための支援体制



管 理 機 関

熊本県教育委員会

熊本県商工労働部

アドバイザーボード
として助言

産 業 界 (産 学 金)

産業実務家教員の派遣（授業・実習）
企業実習・見学の受け入れ
カリキュラム開発への協力

熊本県情報サービス産業協会

熊本県工業連合会

肥後銀行

地域企業・団体

産業実務家教員企業

事業運営委員会

事業実施の意思決定、「マイスター・ハイスクール」のビジョン
策定、熊本県の産業教育の在り方について

- 熊本県教育長(学校設置者)
- 熊本県商工労働部長(地方自治体)
- 熊本県産業政策名誉顧問 村山 伸樹(産業政策)
- 一般社団法人熊本県情報サービス産業協会長 足立 國功(産業界)
- 株式会社肥後銀行代表取締役頭取 笠原 慶久(地方創生)
- 一般社団法人熊本県工業連合会代表理事会長 田中 稔彦(産業界)
- 熊本大学工学部教授 連川 貞弘(産学連携)
- 熊本大学教育学部准教授 高崎 文子(評価検証)
- 武蔵野美術大学造形構想学部教授 若杉 浩一(STEAM)
- 各拠点校校長

市町村自治体

地域の産官学との繋ぎ
地域課題の共有
学校への支援

ニーズの把握

依頼・調整

産学連携コーディネータ

高校教育課

ニーズの把握

依頼・調整

育成すべき資質・能力を
共有した上での連携

事業推進委員会

事業実施の具体的手法等について検証、改善、課題解決

- 各拠点校校長、研究主査・副主査、学科主任等
- 肥後銀行地域振興部 部長
- 一般社団法人熊本県情報サービス協会 事務局長
- 一般社団法人熊本県工業連合会 事務局長
- 熊本大学 工学部長
- 熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課 課長
- 熊本県商工労働部産業振興局産業支援課 課長
- 各拠点校立地自治体商工部局 課長
- 各拠点校産業実務家教員・連携企業代表
- マイスター・ハイスクール事業推進委員会アドバイザー

助言・承認

学 校

拠点校
4校

八代工業高校

玉名工業高校

天草工業高校

阿蘇中央高校(農業・商業・福祉・普通)

先導校

産業界と連携したカリキュラム開発の深
化・発展・整理
新規拠点校へのノウハウの共有・助言

新規拠点校

地域との連携強化による体制の枠組みづくり
産業界と連携したカリキュラム改善
市町村産業関係課との課題の共有
産業実務家教員による授業の実施、企業実習・企業見学
市町村教育委員会との連携による中学校への出前授業 等

各学校が設置

校内運営委員会

育成すべき資質・能力の明確化
連携内容・方法の協議、評価、改善 等

各学校で活用

学校運営協議会

〈目的等〉

- 半導体関連産業を中心とする本県産業全体を支える人材の育成が必要
- 県立高校の生徒や教職員の半導体産業に対する理解や興味関心を向上させることにより、**本県産業を支える人材の育成とU I J ターン**につながる素地（熊本には働く場所があるという認知）づくりを推進

〈取組内容〉



○天草工業高校

～地元の小学生への読み聞かせ～



○天草拓心高校

～地元小学校での出前授業「天草の食の宝を学ぼう」～



○北稜高校

～地元小中学生との門松制作交流会～



○「総合的な探究の時間」 有明高校・岱志高校 合同成果発表会 (荒尾市事業成果報告会)

有明高校と岱志高校の生徒が
1年間の探究活動の成果を合同で発表

* デジタルデバインド班は、両校合同で
高齢者向けのスマホ教室を開催



有明高校ホームページより

○菊池川流域高校生サミット (県立高校OneTeamプロジェクト)

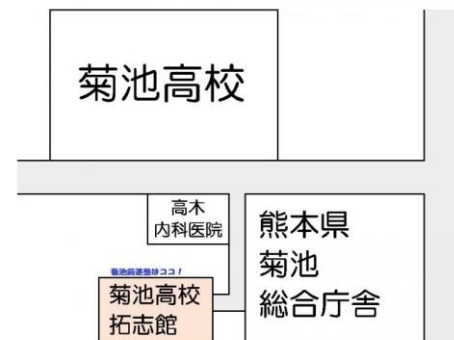
「菊池川流域を高校生が元気にする」
というテーマのもと、地域課題に
取り組んだ探究活動の成果を
市民や行政関係者に向け発表

* 参加校：玉名高校、玉名工業高校、北稜高校、
鹿本高校、鹿本農業高校、
城北高校、菊池農業高校、菊池女子高校



○公営塾「菊池前進塾」(菊池市教育委員会)

菊池市内3校（菊池高校、菊池農業高校、
菊池女子高校）の生徒を対象とした公営塾



菊池市教育委員会ホームページより

熊本スーパーハイスクール (KSH) とは



熊本県教育委員会では、各校の特色を明確化した上で、国または県指定事業の取組や、特色ある学校・学科でグループに区分し、すべての県立高校を「熊本スーパーハイスクール (KSH)」として位置づけて発信しています。

ポイント

熊本スーパーハイスクール (KSH) は3つの区分がある。



国の研究指定校等

スーパーサイエンスハイスクール (SSH)

先進的な理数教育を実施するとともに、大学との共同研究や、国際性を育むための取組を推進する。

- 熊本高校……P11 ●熊本北高校……P15 ●天草高校……P22
- 第二高校……P15 ●宇土高校……P17

理科・数学系教育が充実

マイスター・ハイスクール 拠点校

産業界と専門高校が連携・一体化し、絶えず革新し続ける最先端の職業人育成システムを構築する。

- 玉名工業高校……P11 ●八代工業高校……P20
- 旧藤中央高校……P13 ●天草工業高校……P23

産業の最先端技術を習得
特長……P26

スーパーグローバルハイスクール (SGH) ネットワーク

国際理解教育及び外国語教育水準の向上を図るため、持続可能なグローバル人材育成のネットワークづくりを目指す。

- 清々養高校……P14 ●水俣高校……P20

外国語教育のさらなる向上

熊本版COREハイスクール・ネットワーク

中山間地域においても、遠隔授業により多様で質の高い教育を実現し、地域課題解決のための探究的な活動を通して自己のあり方生き方を考えながら課題を発見し、解決する資質能力を育成する。

- 小国高校……P13 ●球磨中央高校……P21
- 第一高校……P14 ●牛深高校……P23

遠隔授業等による課題解決能力の育成

DXハイスクール

情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する。

- 玉名工業高校……P11 ●御船高校……P17 ●八代高校……P19
- 菊池高校……P11 ●小川工業高校……P18 ●天草臨心高校……P23

デジタルの学びが充実

どのような学びを身につけるか、自分の将来像をイメージしてみよう！



県の研究指定校等

イノベーションハイスクール

県立高校のフロントランナーとして、より良い未来の創造に向けた変革を起こす資質・能力などの育成を目指す。

- 玉名高校……P10 ●第二高校……P15 ●水俣高校……P20
- 大津高校……P12 ●熊本西高校……P15 ●人吉高校……P21
- 清々養高校……P14 ●熊本北高校……P15 ●天草高校……P22
- 熊本高校……P14 ●東郷高校……P15
- 第一高校……P14 ●八代清波高校……P19

未来のリーダーを育成

クリエイティブハイスクール

自治体や関係団体等との連携による探究的な学びを通して、持続可能な地域社会づくりに貢献する人材の育成を目指す。

- 信志高校……P10 ●旧藤中央高校……P13 ●八代南高校……P21
- 北郷高校……P11 ●小国高校……P13 ●球磨中央高校……P21
- 菊池高校……P11 ●高森高校……P13 ●牛深高校……P23
- 熊本東工業高校……P12 ●甲佐高校……P17 ●上天草高校……P23
- 熊本農業高校……P12 ●松橋高校……P17 ●天草臨心高校……P23
- 猪熊高校……P13 ●天部高校……P18

課題解決の学びでSDGsに貢献

プロフェッショナルハイスクール

①リーディング型

産学官連携により、将来のリーダーとしての責任感・使命感・チャレンジ精神等を身に付けることを目指す。

- 熊本商業高校……P16 ●熊本農業高校……P16
- 熊本工業高校……P16 ●八代工業高校……P20

産業界・学校・官公庁との連携

②実践研究型

産業界等との連携により、地域や社会の健全で持続的な発展を担う力を身につけることを目指す。

- 玉名工業高校……P11 ●八代東高校……P19 ●南郷高校……P22
- 菊池農業高校……P12 ●八代農業高校……P20 ●天草工業高校……P23
- 御船高校……P17 ●戸北高校……P21
- 小川工業高校……P18 ●球磨工業高校……P22

学び直しで未来を切り拓く力の育成

エンパワーメントハイスクール

学び直しをはじめとした個別指導の充実を図り、社会で活躍するために必要な力を育成することを目指す。

- 湧心館高校 [全日制・定時制・通信制]……P16
- 熊本工業高校 [定時制]……P16

スーパーグローバルハイスクール (SGLH)

国際社会で通用する能力やグローバルな視点を持ちつつ、地域社会の活性化や発展に貢献する人材の育成を目指す。

- 旧藤中央高校……P13 ●矢部高校……P18 ●上天草高校……P23
- 甲佐高校……P17 ●球磨中央高校……P21

国際的な視点で地域社会に貢献

英語フロンティアハイスクール

グローバル人材の育成を図るため、ALT (外国語指導助手) を活用した英語による発信力を高める授業など、実践研究を行う。

- 玉名高校……P10 ●第一高校……P14 ●宇土高校……P17
- 清々養高校……P14 ●第二高校……P15 ●八代高校……P19
- 熊本高校……P14 ●熊本北高校……P15

英語の能力を高め国際的な人材へ

ICT特定推進校

地域と連携しながらICT (情報通信技術) を活用し、県内外から注目を浴びるような特色ある取組を行うことを目指す。

- 熊本農業高校……P12 ●熊本西高校……P15 ●人吉高校……P21
- 高森高校……P13 ●戸北高校……P21 ●八代南高校……P21

情報通信技術を活用した学び！

学力向上研究指定校

研究課題について、教育課程の編成や指導方法、学習評価等の実践研究を行い、学力向上を図る。

- 熊本高校……P11 ●小国高校……P13 ●八代高校……P19
- 大津高校……P12 ●熊本北高校……P15 ●牛深高校……P23

研究を通じた学力向上

チェック

熊本スーパーハイスクール構想について詳しくは「熊本県立高校検索ガイド」でチェック！

KSH構想の概要！
熊本県立高校検索ガイド



○県立高校魅力向上のための情報発信

ホームページ、パンフレット、SNS等を活用



県立高校検索ガイド



徹底ガイドブック

○ 第3回熊本スーパーハイスクール(KSH)全体発表会

R6年12月21日(土)

参加者・来場者:約3,500人!



○高校間連携(OneTeam プロジェクト)

教育活動の深化・効率化を図るため、高校間で連携し、探究活動や、相互補完的な合同授業等を実施

矢部×上天草

「林業のちから×ふくしの心」

- 福祉の現場や特別支援教育の課題を解決できる木工製品を共同開発



人吉高校五木分校×八代農業泉分校×天草倉岳校

「分校同盟」

- 各校の生徒が混在したグループによるオンラインや対面でのワークショップを実施



○高大連携・高大接続

高校と大学で連携し、高校における大学教員の出前授業や高校生の探究活動に対する大学教員の支援などを実施

大学教員による出前授業

大学教員の専門分野に関する授業を高校生が受け、最先端の学びに触れる。



高校生の探究活動に対する大学教員の支援

大学教員の専門的知見からの助言や、大学の設備を利用した実験実習等の支援。



大学等の講義を高校生へ開放

大学で行われている講義に、高校生が参加する機会を設定。条件によっては、入学後の単位に認められる場合も。

高校教員向けの研修等の支援

K S H（熊本サイエンスコンソーシアム）

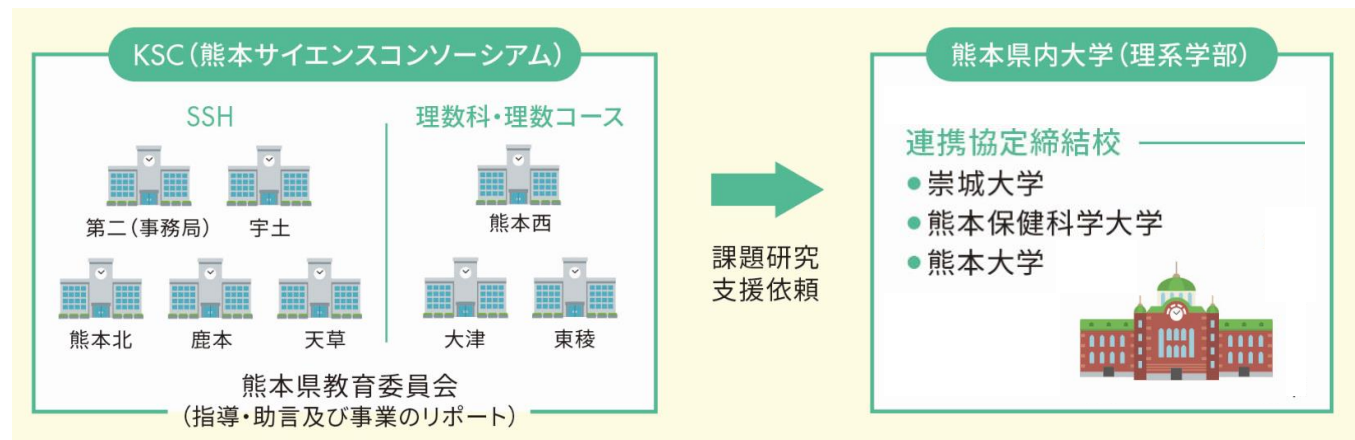
熊本県における理数教育と科学技術人材育成のため、SSH指定校※を中心としたコンソーシアムを構築、県教育委員会の指導・助言のもと、次の取組を展開

- 高大連携・高大接続に関すること
- 探究活動の推進に関すること
- 企業等との連携に関すること



※SSHとは・・・

先進的な理数教育を実施し、高大接続の在り方について大学との共同研究や国際性を育むための取組、また創造性、独創性を高める指導方法、教材の開発等の取組を実施する文部科学省の研究指定校



国際バカロレア（IB）とは？

国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が提供する、国際的な視野を持った人材を育成するための教育プログラム。グローバル社会を生き抜く上で必要な知性、人格、情緒、そして社会的なスキルを身につけることができる。

【IBの学習者像】

- 探究する人
- 知識のある人
- 考える人
- コミュニケーションができる人
- 信念をもつ人
- 心を開く人
- 思いやりのある人
- 挑戦する人
- バランスのとれた人
- 振り返りができる人



○プライマリー・イヤーズ・プログラム ○ミドル・イヤーズ・プログラム ○ディプロマ・プログラム

- 対象：3～12歳
- 幼稚園、小学校で導入
- 【国内：49校※】
- どのような言語でも提供可能。

- 対象：11～16歳
- 中学校で導入
- 【国内：24校※】
- どのような言語でも提供可能。

- 対象：16～19歳
- 高校で導入
- 【国内：57校※】
- 所定のカリキュラムを2年間履修
最終試験に合格すると国際的に
通用する大学入学資格を取得。
- 最終試験の合格率は約80%

※R6.12 31時点の認定校数

県立八代高等学校・八代中学校

- 令和3年6月の定例教育委員会において導入校として決定。
- 令和6年度からMYP（ミドル・イヤーズ・プログラム）の試行開始、令和9年度からDP（ディプロマ・プログラム）を導入予定。
- 令和6年3月 八代中学校がMYP候補校に、令和7年2月、八代高校がDP候補校になった。
- IB認定を受ければ、九州内の公立学校では初となる。

【海外留学に向けた取組】

1 留学説明会の実施

高校生の海外留学に関する情報提供を中・高生を対象に年3回実施

2 留学支援員の配置

県立学校での留学説明会、電話やメールによる留学相談

3 州立モンタナ大学高校生派遣事業

夏季休業中に、高校生18人を約2週間程度派遣（費用一部助成）

4 高校生の長期海外留学や海外進学に係る助成

高校生の長期海外留学や海外進学に係る費用面での助成



【台湾との交流】

○ 台湾高雄市の学校との交流

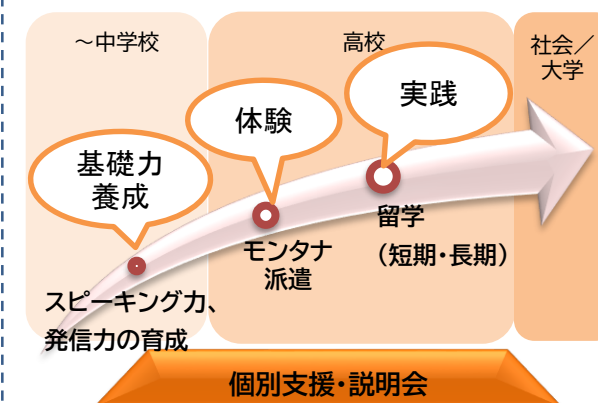
- ・ 公立高校、市町村立学校と希望校とのマッチング
- ・ 学校間で教育旅行の受入れやオンラインによる交流等

（参考）県内高校生留学者数の増減

年度	高校留学	大学進学
2014	10	20
2023	17	30

増加
傾向

（イメージ図）



現状・課題

大学教育段階で、デジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、その政策効果を最大限発揮するためにも、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が必要

事業内容

情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、専門的な外部人材の活用や大学等との連携などを通じてICTを活用した探究的・文理横断的・実践的な学びを強化する学校などに対して、そのために必要な環境整備の経費を支援する

支援対象等

公立・私立の高等学校等
(1,200校程度)

箇所数・補助上限額 ※定額補助

- 継続校 : 1,000校 × 500万円（重点類型の場合700万円）
 - 新規採択校 : 200校 × 1,000万円（重点類型の場合1,200万円）
 - 都道府県による域内横断的な取組 : 47都道府県 × 1,000万円
- ※必須要件に加えて、各類型ごとの取組を重点的に実施する学校を重点類型として補助上限額を加算（80校（半導体重点枠を含む））

採択校に求める具体の取組例（基本類型・重点類型共通）

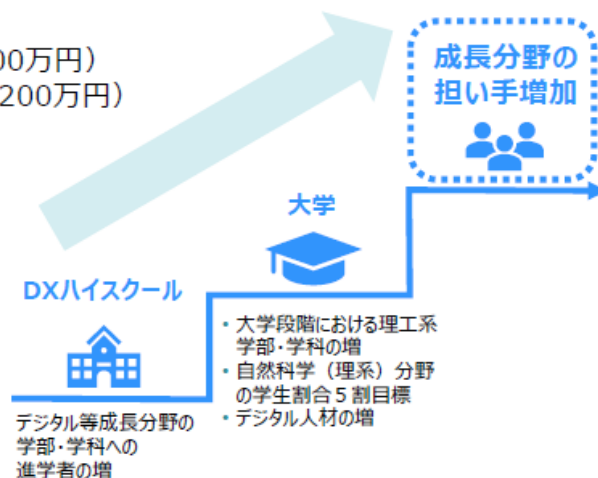
- 情報Ⅱや数学Ⅱ・B、数学Ⅲ・C等の履修推進（遠隔授業の活用を含む）
- 情報・数学等を重視した学科への転換、コースの設置
- デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びの実施
- デジタルものづくりなど、生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進
- 高大接続の強化や多面的な高校入試の実施
- 地方の小規模校において従来開設されていない理数系科目（数学Ⅲ等）の遠隔授業による実施
- 専門高校において、デジタルを活用したスマート農業やインフラDX、医療・介護DX等に対応した高度な専門教科指導の実施、高大接続の強化

採択校に求める具体の取組例（重点類型（グローバル型、特色化・魅力化型、プロフェッショナル型（半導体重点枠を含む）））

- 海外の連携校等への留学、外国人生徒の受入、外国語等による授業の実施、国内外の大学等と連携した取組の実施等
- 文理横断的な学びに重点的に取り組む新しい普通科への学科転換
- 産業界等と連携した最先端の職業人材育成の取組の実施

支援対象例

ICT機器整備（ハイスペックPC、3Dプリンタ、動画・画像生成ソフト等）、遠隔授業用を含む通信機器整備、理数教育設備整備、専門高校の高度な実習設備整備、専門人材派遣等業務委託費 等



事業スキーム



(担当：初等中等教育局参事官（高等学校担当）付)

R7熊本県採択校
(県立)

・新規1校

1 水俣高等学校

・継続2年目6校

1 御船高等学校

2 小川工業高等学校

3 菊池高等学校

4 天草拓心高等学校

5 玉名工業高等学校

6 八代高等学校

目的

地域の高等学校における「教科・科目充実型」の遠隔授業、学校間連携の運営体制、地域との協働を通じて「多様な学びの中で、地方の資源を発掘し、活かし、伸ばす人材の育成」や、「地域の人材育成の拠点、心の拠り所として、なくてはならない高等学校」を実現する。

1. 現状・課題

地域の学校規模が小さくなり、結果として多様な学びが制約され、さらにそれが都市部への進学に拍車をかけるという流れがある。また、地方部は様々な資源が存在する。しかしながら、これらの資源は活かされず、眠っているものも多い。新たな資源を発掘し、新たな魅力や価値を創造できる人材育成が求められている。

2. ネットワークを構成する学校及び遠隔授業の実施科目

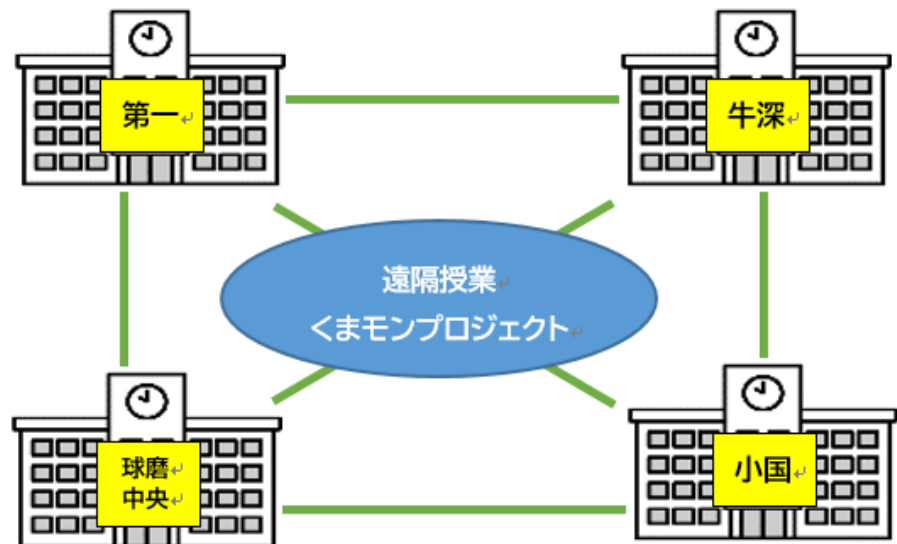
- 中心拠点
- 令和6・7年度：第一高校、（教育センター）
 - 令和8年度：配信センター
- 連携校
- 令和6年度：小国高校、球磨中央高校、牛深高校
 - 令和7年度：上記3校+岱志高校
 - 令和8年度：上記4校+ 新規参加1～3校（小規模校）

配信校	受信校	教科（科目）
第一高校	小国高校	数学（数学B・C）
人吉高校（指導教諭より配信）	岱志高校	総合的な探究の時間
球磨中央高校	小国高校	商業（マーケティング）
八代高校（指導教諭より配信）	小国高校	外国語（発展英語）
教育センター（鹿本高校教諭より配信）	牛深高校	情報探究

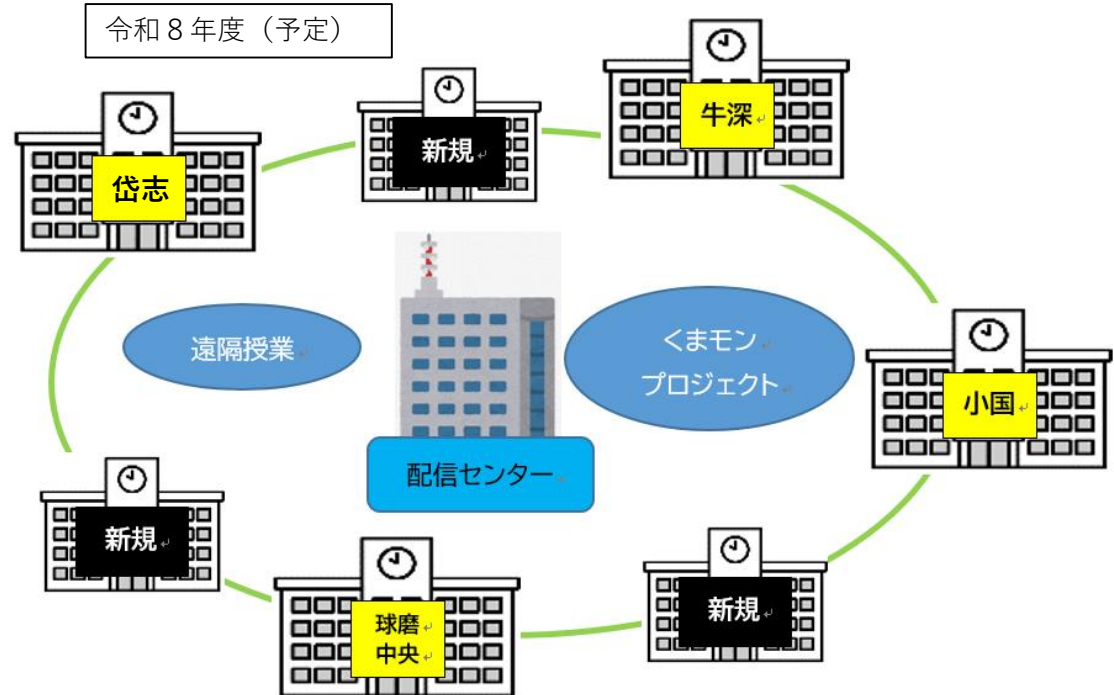
3. 遠隔教育・探究的な学びに関する取組の概要

- ・令和4・5年度は、第一高等学校や県立教育センターを主たる配信拠点とした遠隔授業の実施
- ・令和6～7年度に配信センター設置の検討
- ・令和8年度に配信センター設置、試行運用開始
- ・県内（第一高校（熊本）、小国高校（阿蘇）、牛深高校（天草）、球磨中央高校（人吉球磨）
令和7・8年度に新規参加校1～3校を追加し一体化した地域課題解決のための探究活動
（くまモンプロジェクト）の実施

令和6年度



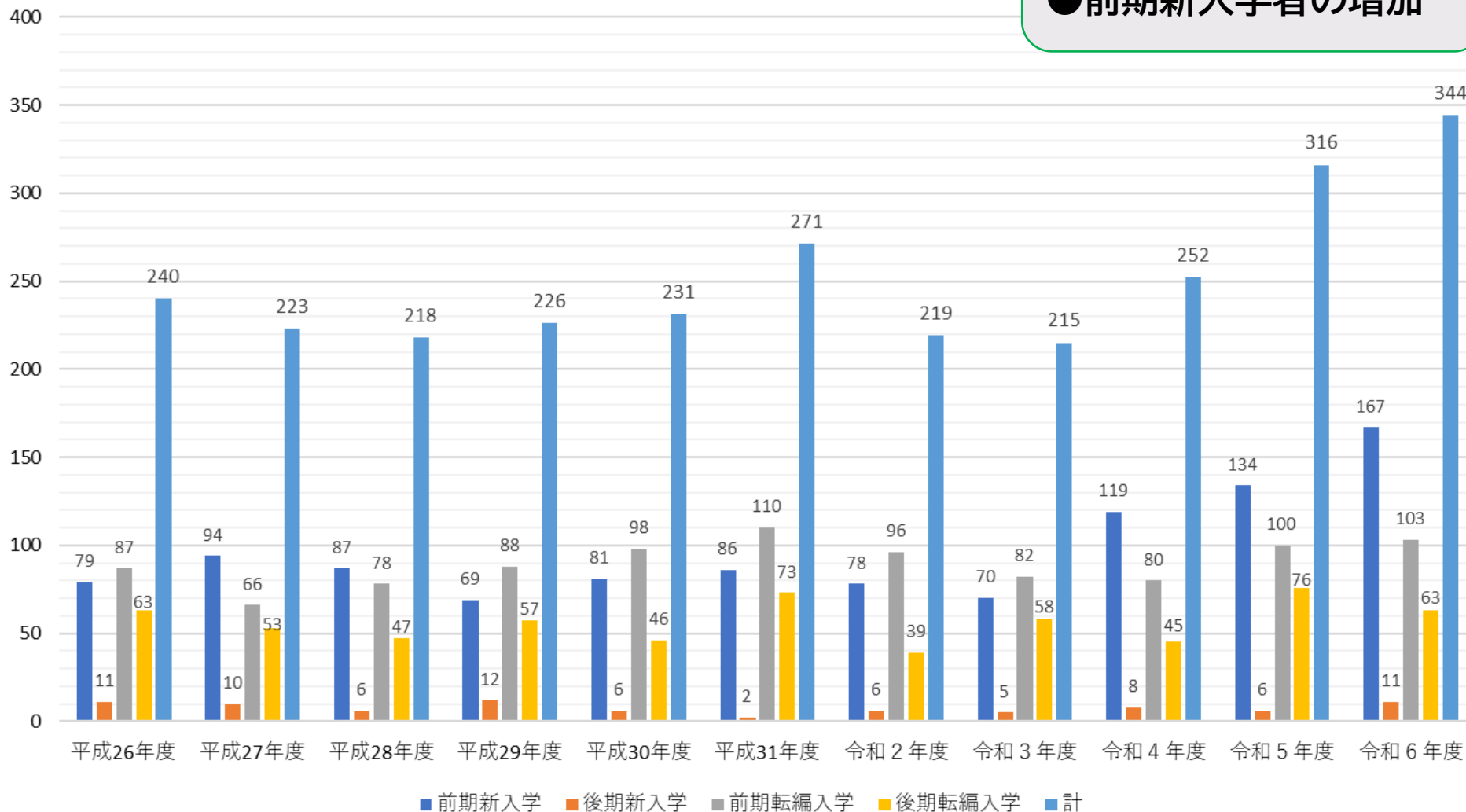
令和8年度（予定）



取組Ⅲ-② 県立湧心館高等学校通信制課程の入学者の推移

熊本県立湧心館高等学校 通信制
入学者の推移

- 生徒数の増加
- 前期新入学者の増加

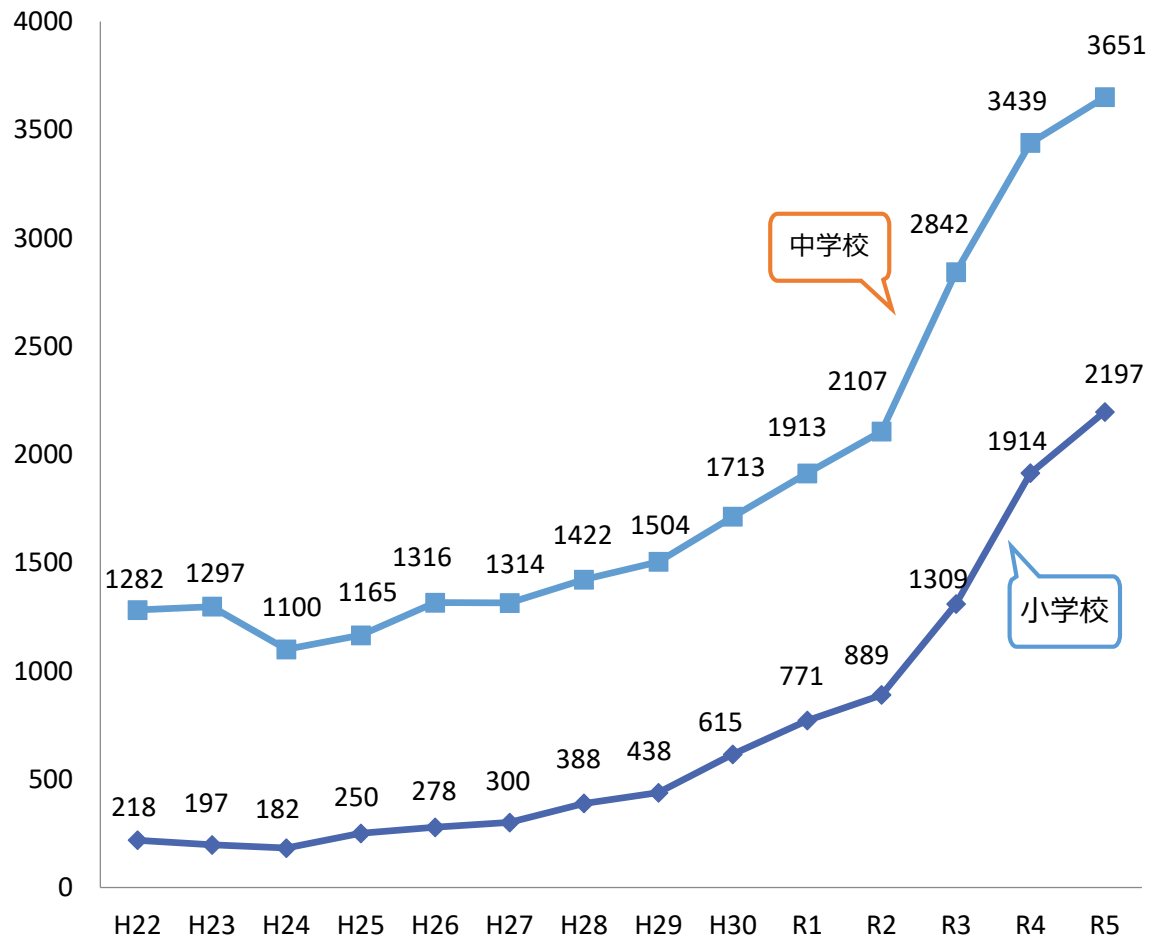


【参考】全国状況

- 15歳人口はR19年には約78万人まで減少(R5は約108万人)
- 全日制・定時制は学校数・生徒数とも減少
- 全国的にも通信制は学校数・生徒数ともに増加傾向(特に私立)
- 特に私立通信制の生徒数は大きく増加(H12からの20年で3倍)

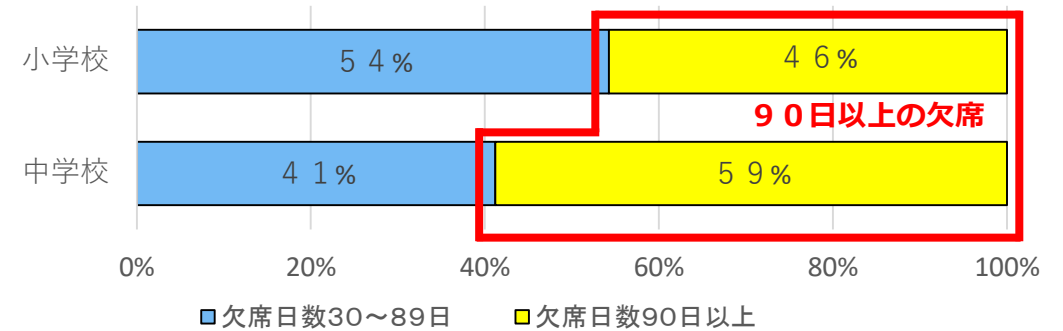
取組Ⅲ-② 義務教育段階における不登校児童生徒の状況

熊本県不登校児童生徒数の推移（国公立小中学校）



出典：令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より

不登校児童生徒の期間別欠席日数状況（国公立小中学校）



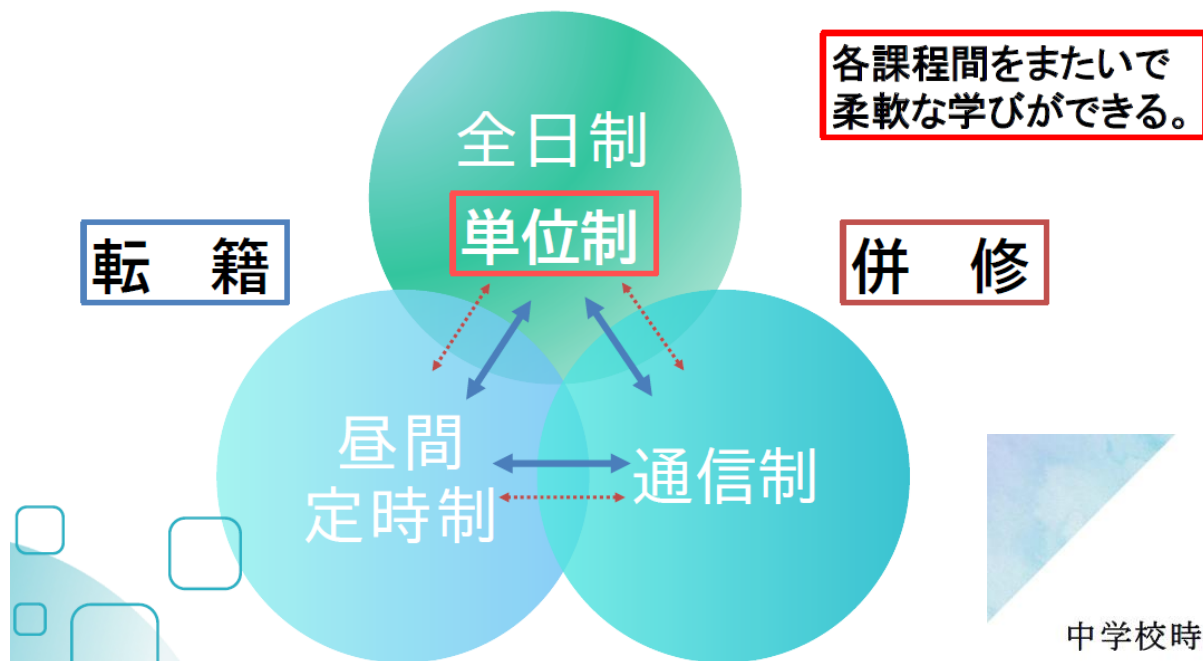
出典：令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より

不登校児童生徒の主な生活の場所（熊本市を除く公立小中学校）

該当者数		小学校	中学校	合計	全体に占める割合
主な生活の場所	主に家庭	465	1,034	1,499	53.3%
	主に学校	434	639	1,073	38.2%
	教育支援センター等	48	118	166	5.9%
	民間施設（フリースクール等）	41	32	73	2.6%

熊本県長期欠席児童生徒等に関する調査（令和6年3月末）より

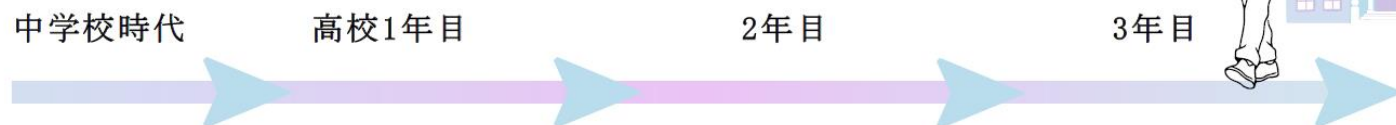
フレキシブルハイスクールとは？



多様な学習ニーズに応えるために、全日制、昼間定時制、通信制の3つの課程を一つの学校内に設置。

→ フレキシブルハイスクール

フレキシブルハイスクール 学習のイメージ



例1 不登校経験等

通信制に入学

学校へ通う自信がついたので昼間定時制の授業を併修

全日制の授業も一部併修し、3年間で卒業を目指す。

例2 不登校経験等

昼間定時制に入学

学校へ通う自信がついたので全日制に転籍

3年間で卒業を目指す。



①不登校の生徒も積極的に受け入れ、入学者が大幅増加

- ・発達支援的生徒指導への転換（R4～）
- ・中学生のための個別進路相談（HPで発信）
→ ニーズ掘り起こし（←広域通信、特支）
- ・「行きたくなる学校」づくり

定員	年度	R3	R4	R5	R6
120	入学者数	66	59	99	119



*学び直し *ソーシャルスキル向上の取組 *学習サポートルーム（保健室に代わる居場所）

★R6～校舎内に不登校の中学生が利用できる「教育支援センター My Place(マイプレイス)」を開設

②全通併修フレックス制の導入（R7. 4月～）

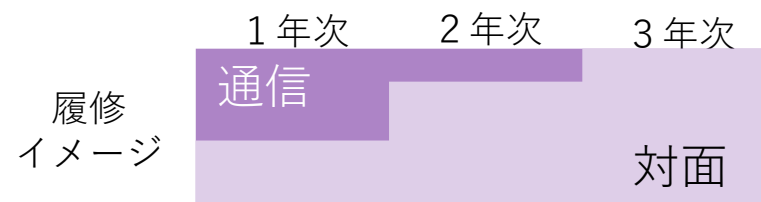
県の不登校対策の一環

- ・県立岡山操山高校通信制課程の科目履修可能
- ・段階的に登校を増やす
- ・入試は面接のみ（20%=24名）

1年次:15単位、2年次:4単位

*出願者=10名

*課題=他校通信制との連携のため自由度に制限



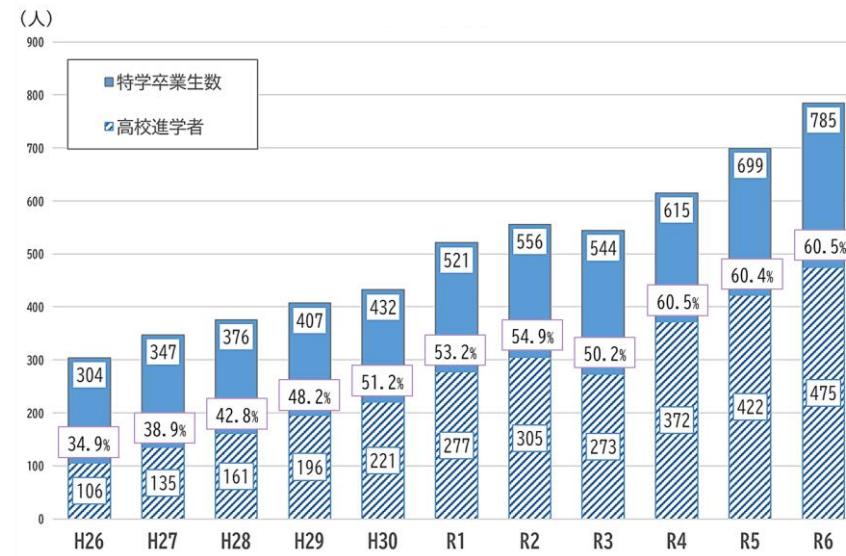
取組Ⅲ-③ 特別支援教育に関する参考データ

● 特別支援学校高等部 在籍者数 (R6)

R6.5.1 現在

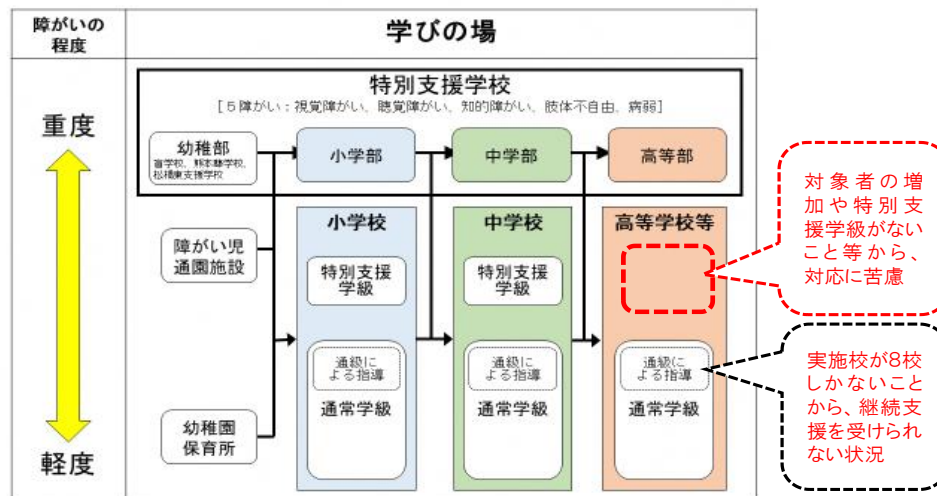
	障がい種	高等部				計	R5年度卒 3年生
		学校名	1年	2年	3年		
1	視	盲学校	1	3	5	9	3
2	聴	熊本聾学校	5	2	6	13	4
3	知	熊本はばたき高等支援学校	74	74	59	207	69
4	知	ひのくに高等支援学校	32	31	30	93	32
5	知	鏡わかあゆ高等支援学校	67	61	57	185	48
6	知	熊本支援学校		8	4	12	6
7	肢	熊本かがやきの森支援学校 (本校)	7	3	4	14	6
	肢	(江津湖分教室)	0	3	2	5	3
8	知	松橋西支援学校 (本校)	17	18	16	51	12
	知	(上益城分教室)	5	3	1	9	8
9	肢	松橋支援学校	4	3	5	12	5
10	知	荒尾支援学校	23	30	18	71	25
11	知	かもと稲田支援学校	13	17	11	41	5
12	知	大津支援学校	25	20	16	61	26
13	知	菊池支援学校	20	19	27	66	21
14	病	黒石原支援学校	17	8	10	35	13
15	知	小国支援学校	10	12	8	30	6
16	肢	芦北支援学校 (本校)	2	2	0	4	2
	知	(佐敷分教室)	7	5	7	19	5
17	知	球磨支援学校	27	15	12	54	9
18	知	天草支援学校	17	19	15	51	22
19	肢	苓北支援学校	1	4	5	10	3
20	知	八代支援学校	6	9	3	18	4
21	知	平成さくら支援学校	24	24	23	71	23
22	知	熊本大学附属特別支援学校	8	8	8	24	8
県立特別支援学校 (全体)			374	360	318	333	
県立特別支援学校 (知的のみ)			337	332	281	294	
公立特別支援学校 (全体)			412	401	352	368	
公立特別支援学校 (知的のみ)			375	373	315	329	

● 特別支援学級から高等学校への進学者数と割合



特別支援学級卒業生のうち、
約6割が高等学校へ進学

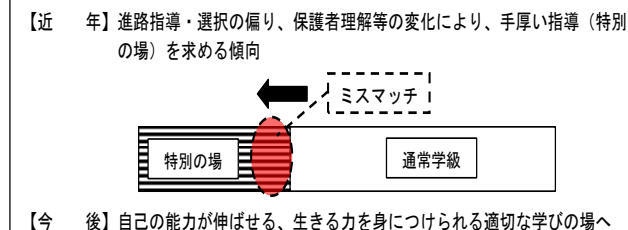
■ 本県の学びの場のイメージ図



○ 特別支援学校高等部の課題

- ・在籍状況から進路指導をなされる場合が多く、特別支援学校高等部への進学希望が増えている。年度によっては出願者数が募集定員を大きく超える学校がある。
- ・特別支援学級での指導により一定の成長が見られるにもかかわらず、進路指導・選択が偏った状況。学びのミスマッチが生じており、入学後、支援学校の学習内容等に不満を持ち、進路変更する生徒が一定数いる。

■ 学びのミスマッチのイメージ図



医療的ケアの実施

- 県立高校 **1校** に医療的ケアを実施する看護師を配置

安心安全に共に学べるよう、痰の吸引などの医療的ケアを実施しています。高校でも、必要なケアを看護師が行うことで、生徒も保護者等もとても安心して学校に通学しています。



【配置校】

人吉高校

特別支援教育支援員の配置

- 県立高校 **16校** に特別支援教育支援員を配置

担任等と協力しながら、着替えや移動など学校生活の支援やノートテイクなどの学習支援をしています。生徒からは、支援員がいることで、安心して学校に行けるなどの声が上がっています。



【実施校】

御船高校 天草拓心高校
人吉高校五木分校
甲佐高校 南稜高校
鹿本農業高校 松橋高校
牛深高校 湧心館高校
熊本商業高校 東稜高校
八代農業高校・泉分校
岱志高校 菊池農業高校
第二高校

高等学校における「通級による指導」

- 県立高校 **8校** で「通級による指導」を実施
(令和7年5月1日現在で、47人が受講中)

一人一人の教育的ニーズに応じた学習に取り組んでいます。

コミュニケーションの学習等に取り組むことで、授業中や部活動等での友達や教師とのやり取りが円滑になる等の成果が出ています。



【実施校】

岱志高校 湧心館高校
天草拓心高校 翔陽高校
菊池農業高校 松橋高校
阿蘇中央高校
八代農業高校

合理的配慮支援機器の貸与

- 補聴システムなどの支援機器を貸与

拡大読書器や補聴援助システムを活用することで、見え方・聞こえ方などの困難を軽減させるなど、教育環境の最適化を図っています。

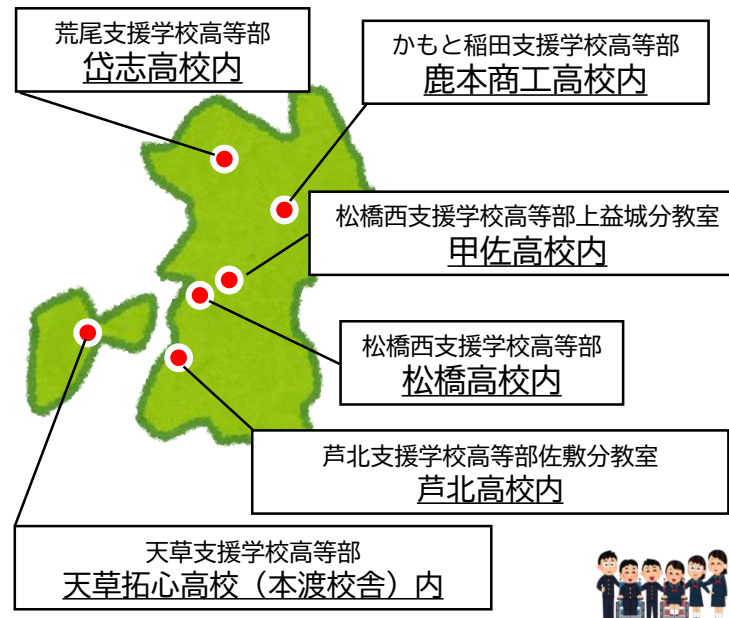
貸与している支援機器

拡大読書器
対話支援機器 *音声送信機付き
デジタルワイヤレス補聴援助システムタッチスクリーンマイク及びマイリンク
マッスルスーツパワーアシスト
電動式昇降式ストレッチャー

高等学校と特別支援学校を同敷地内に設置

- 県内6校の高等学校内に特別支援学校高等部や高等部分教室を設置

学校行事（体育祭、文化祭）や日常的な学習で、交流や共同学習を実施しています。



<松橋西支援学校高等部>
授業で製作した製品を紹介している様子



<荒尾支援学校高等部>
生徒会主催の対面式の様子



甲佐高等学校と松橋西支援学校高等部上益城分教室の両校生徒の交流及び共同学習を発展的に進め、柔軟な教育課程の設定や指導体制のあり方等の検討をとおして、障がいのある生徒と障がいのない生徒が共に学ぶ新たな学びの場の実現を目指した実証的な研究を行う。

【取組テーマ(案)】

魅力ある学びを両校から提供し合い「共に学ぶ」を一層深める 新たな学校づくり



① 交流及び共同学習の機会と内容を拡充する

- ・ カリキュラムマネージャーを中心に、両校で交流連絡会(仮)を開き、検討する。
- ・ 「協力して成し遂げる」「お互いを通して学ぶ」など共同学習の目当てを明らかにして取り組む。

② 授業を互いに受けられる仕組みをつくる

- ・ 両校のリソース(授業内容等)から互いに求めるもの、提供できるものを出し合い、活動内容や年間計画をP D C Aで作っていく。
- ・ 必要な指導体制等を検討する。
- ・ 生徒本人の意向を尊重する。

③ 学びの質を高めるための一層の協力体制を築く

- ・ (高) 生徒の特性を理解して指導を行うための教育相談やケース会を分教室職員と共に行う。
- ・ (支) より質の高い教科指導を行うための授業検討会を高校職員と共に行う。





菊池農業高校 馬術部

- 個性豊かな17頭の馬(乗用馬13頭、ポニー4頭)を繋養しており、騎乗チャンスもたくさんあります。
- 馬に乗って競技会を目指す「ライダー」と馬の飼養管理や調教馴致を行う「グルーム」に分かれて活動しています。
- 全国でも珍しい馬について学ぶ授業「馬学」と広大な敷地、充実した設備で一緒に過ごしましょう！

毎日の手入れによる飼養管理を通して馬との絆も育まれます。

競技には「馬場馬術」と「障害飛越」があります！

練習用馬場や競技用馬場等で、様々な練習が可能！

人吉高校・球磨工業高校・水俣高校 カヌー部

- 県内に3校だけのカヌー部ですが、みんな本気で日本一を目指しています。
- カヌーは一人乗りだけでなく、2人・4人のチームボートとしても楽しめます。
- できなかったことができるようになる！そんな自身の成長を感じることができます。



人吉高校



球磨工業高校



水俣高校



水俣川での練習(水俣)

新しくなった艇庫での活動(人吉・球磨工業)

球磨川での合同練習(人吉・球磨工業)

御船高校 書道部

- 全国高等学校総合文化祭で文部科学大臣賞を2度、文化庁長官賞を1度受賞しました。
- 芸術コースのある学校のため、経験豊かな指導者が複数で指導します！
- とにかく心が育つ！全員がチームや個人の目標に向かって日々頑張っています！



日常の練習風景…考えながら黙々と書きまくっています！

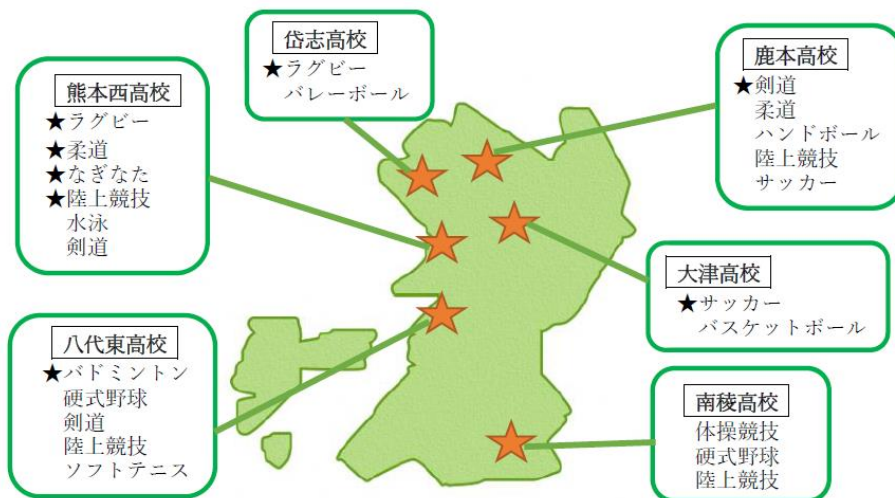
久しぶりの合宿…本当に楽しいです!!

書道パフォーマンス…達成感半端ないです！



取組① トップアスリートの育成

- ◆強化指定競技 ⇒ 全国レベルでの活躍を目指すアスリートの育成
 - ◆特別強化指定競技(★) ⇒ 日本トップ及び世界を目指すアスリートの育成
- ※強化・特別強化指定競技は、学校の方針、地域の実情、競技成績等に応じて設定



取組② スポーツを支える人材の育成



- ◆大学や専門学校、消防署、医療機関等との連携
- ◆スポーツ栄養士やスポーツトレーナー等を目指す授業づくり
- ◆スポーツ大会の企画・運営を通じた社会参画や地域貢献の学習
- ◆スポーツライフに関する課題研究及び研究発表等の実施

【例 1】 スポーツコース 設置校

熊本西高等学校		全日制	普通科	募集 定員	280 人
育成する生徒像					
校訓「清 明 和」のもと、熊本市にあるスポーツコースを含む普通科とサイエンス情報科を有する高校として、多様な価値観や豊かな創造性を備え、世界的な視野と進取の精神をもち、社会の課題を解決し地域に貢献できる人材を育成します。					
求める生徒像					
次の①～③に該当する生徒を求めています。 ①確かな基礎学力を身に付けており、幅広い分野に興味・関心を持っている生徒 ②学業のみならず、特別活動や部活動などに積極的に参加する意欲を持った生徒 ③基本的生活習慣を身に付け、地域社会に貢献する意欲を持った生徒					
A 日程	特色選抜	選抜枠	Ⅰ		Ⅱ
		重視する 観点	○中学校における学習 ○調査書の各教科の学習の記録		○調査書の特別活動の記録及び各教科 の学習の記録 ○体育・スポーツ活動で実績がある者
		選抜の対象	希望者		希望者
		募集人員	98 人（募集定員の 35%）		42 人（募集定員の 15%）
		独自検査 の内容			
		配点	○学力検査（500 点） 国語 社会 数学 理科 英語 100 100 100 100 100 ○調査書（180 点）		○学力検査（250 点） 国語 社会 数学 理科 英語 50 50 50 50 50 ○調査書（350 点）
		備考	○選抜枠Ⅱとの併願はできない。		○選抜枠Ⅰとの併願はできない。
	一般選抜	募集人員	140 人（募集定員の 50%）（募集定員から特色選抜の合格者数を減じた数とする）		
		第 1 選考	令和 9 年度（2027 年度）熊本県立高等学校入学者選抜要項による。		
		第 1 選考後の 選抜基準	学力検査の得点合計を選抜の主たる資料とし、調査書を参考として総合的に選抜を行う。		
B 日程	総合選抜	独自検査 の内容			
		配点	○学力検査（250 点） 国語 社会 数学 理科 英語 50 50 50 50 50 ○調査書（180 点）		
		備考	○学力検査については、A 日程の学力検査の結果を利用する。		

【例 2】 スポーツコース 設置校以外

熊本工業高等学校		全日制	機械科、電気科、電子科、 工業化学科、テキスタイルデザイン科、 土木科、建築科、材料技術科、 インテリア科、情報システム科	募集 定員	各 40 人
育成する生徒像					
綱領「明朗真摯」「創意工夫」「友愛協調」のもと、熊本市にある県内唯一のテキスタイルデザイン科や材料技術科を含む工業系学科の高校として、学習活動や部活動を通して、豊かな人間性や礼節を身に付け、心身ともに健康でたくましい、自らの可能性に挑戦し進路実現を図る人材を育成します。また、次世代をけん引できる優れた工業技術をもち、国際社会で活躍する人材を育成します。					
求める生徒像					
①工業の知識や技術を身に付けて、産業界で活躍したいという意欲のある生徒を募集します。 ②部活動やボランティア活動、生徒会活動等に積極的に取り組みたいという生徒を募集します。 ③明確な目標をもち、夢の実現に向けて努力することができる生徒を募集します。					
A 日程	特色選抜	選抜枠	Ⅰ		Ⅱ
		重視する 観点	○調査書の各教科の学習の記録 ○調査書の特別活動の記録 ○部活動等において顕著な成績又はそれ に準ずる成績・実績を収め、将来的 に本校の核として活躍が期待できる 者		○調査書の各教科の学習の記録 ○調査書の特別活動の記録 ○生徒会活動、ボランティア活動等に 携わり、将来的に本校の核として活 躍が期待できる者 ○工業に強い関心を持ち、技能・技術 を身に付けたいという明確な目標が ある者
		選抜の対象	希望者		希望者
		募集人員	各 12 人（募集定員の 30%）		各 8 人（募集定員の 20%）
		独自検査 の内容			
		配点	○学力検査（250 点） 国語 社会 数学 理科 英語 50 50 50 50 50 ○調査書（360 点）		○学力検査（250 点） 国語 社会 数学 理科 英語 50 50 50 50 50 ○調査書（360 点）
		備考	○次の競技を、特に重視する。 （野球、陸上、駅伝、ラグビー、サッカー、 バレーボール、バスケットボール、テニス、ソフトテ ニス、ソフトボール、卓球、ハンドボール） ○選抜枠Ⅱとの併願はできない。		○選抜枠Ⅰとの併願はできない。
	一般選抜	募集人員	各 20 人（募集定員の 50%）（募集定員から特色選抜の合格者数を減じた数とする。）		
		第 1 選考	令和 9 年度（2027 年度）熊本県立高等学校入学者選抜要項による。		
		第 1 選考後の 選抜基準	学力検査の得点の合計点を選抜の主たる資料とし、調査書を参考にして合格者を決定する。		
B 日程	総合選抜	独自検査 の内容			
		配点	○学力検査（250 点） 国語 社会 数学 理科 英語 50 50 50 50 50 ○調査書（180 点）		
		備考	○学力検査については、A 日程の学力検査の結果を利用する。		

○目的

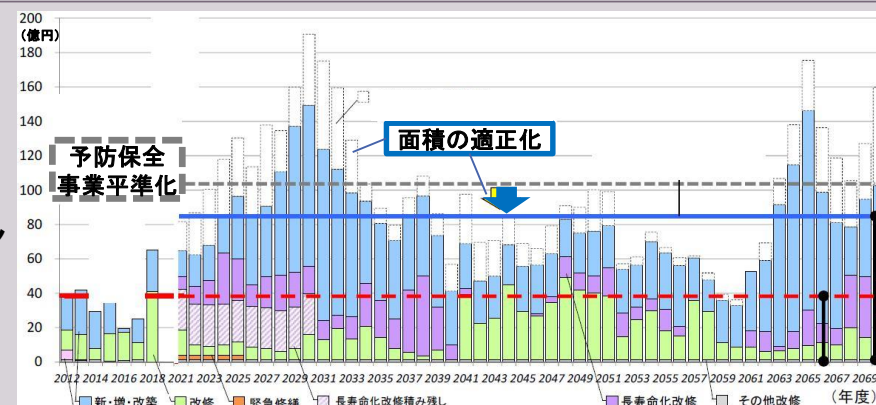
県立学校施設の老朽化状況に応じ、中長期的に施設整備に係るトータルコストの縮減と予算の平準化を図りながら、学校施設に求められる機能・性能を確保し、魅力ある学校施設の整備を計画的に実施する。

<現状・課題>

- 県立学校施設は2,342棟、約90.0万㎡県立学校69校中58校の施設が築40年以上経過し、老朽化が進行。今後一斉に改築時期を迎える。
- 高等学校の生徒数は53年間で約47%減少。特別支援学校の児童生徒数は53年間で約2.3倍に増加。
- 維持・更新コストの推計(今後50年間)
 - ・ 建替え型の場合、5,113億円、長寿命化型は4,783億円、併用型は4,903億円(併用型でも整備費実績額(37億円/年)の約2.6倍)
 - ・ 総量適正化型(施設保有状況と諸室の利用状況を基に整備面積の適正化を図る)で16.4万㎡削減できた場合、3,921億円

<事業概要>

- 施設実態を把握 躯体の健全性や各部の劣化状況等を把握、情報集約
- 長寿命化 目標使用年数を90年に設定、予防保全導入(築20・60年で中規模改修、築40年で長寿命化改修)長寿命化が困難な建物は築60年で改築(築20・40年で中規模改修)
- 総量適正化 施設保有状況と諸室の利用状況、生徒数等を基に整備面積の適正化を図る。
- 整備の進め方 築年、劣化状況等から学校単位で平均年3.5校の整備に着手し、20年で全ての学校に手を入れる。
- 緊急修繕等 併行して機能回復等の緊急を要する施設整備を行う。
- 魅力向上 バリアフリー、トイレ洋式化、内装の木質化等、衛生や安全面にも配慮した誰もが使いやすい親しみのもてる施設整備。
- コスト見通し 50年で3,828億円(77億円/年)。

総量適正化型
整備費シュミレーション

教職員の確保・弾力的な配置

○採用選考考査等の見直し

- ・大学・県内企業等との連携による教員の確保
- ・大学の推薦制度の導入、社会人の特別選考
- ・臨採等の受考資格の要件緩和

○教員免許所有者の掘り起こし

- ・ペーパーティーチャー講習会の実施
- ・UIターン者への相談支援

○教員の魅力発信

- ・「PR動画のホームページへの掲載」等の教員の魅力発信の取組
- ・大学と連携した高校生に対する教員魅力発信講座の開催

○加配措置による弾力的な配置

- ・2校舎制の学校への教職員の配置
- ・国際バカロレア（IB）教育認定校の設置に伴う教職員の配置
- ・併設型中高一貫校に対する教職員の配置

スーパーティーチャーの活用

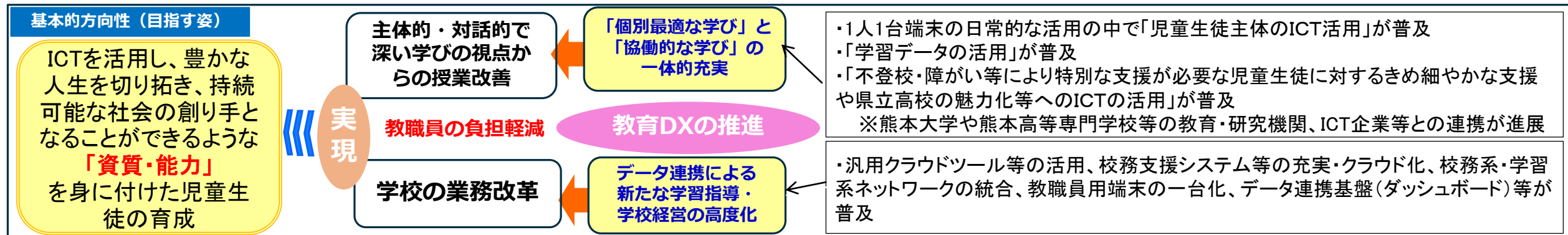
○スーパーティーチャー（指導教諭）とは

- ・指導教諭とは、自ら授業を受け持ち、所属する学校の児童生徒等の実態等を踏まえ、自校だけでなく他校の教員に対して教育指導に関する指導、助言を行う教員のこと。
- ・スーパーティーチャーは、法的に位置付けられた職ではなく、教育委員会が高い指導力を有する教員を「スーパーティーチャー」として位置付けている。本県では、「指導教諭」のことを「スーパーティーチャー」と呼んでいる。

○スーパーティーチャーの配置の目的

- ・自校だけでなく他校の教員に対して教育に関する指導助言や研修を行うことで、県全体の教員の指導力向上を図り、生徒の学力向上につなげるもの。
- ・各拠点に配置（R7県立学校23名）し、近隣校及び自校の教員に対する組織的・計画的な指導助言体制の確立（知識・技能等の継承）、若手教員や指導力に課題のある教員の資質・能力の向上（人材育成、OJTの活性化）に取り組んでいる。

「熊本県学校教育情報化推進計画」【概要】



基本的な方針		主な目標（指標）	
全般的事項	優良校認定（3年ごとに更新）について、各学校において、主体的に認定更新を行い、学校情報化の底上げ（格差解消）・レベルアップ	基本目標（成果指標）	●1人1台端末を授業でほぼ毎日活用している学校の割合 小学校 69.8% 中学校 66.7% ➡ 100% （R9） 県立高校 74.6%
児童生徒の情報活用能力	情報活用能力の育成、健康面への配慮、いじめ・自殺・不登校等の対応の充実、障がいのある児童生徒の教育環境の整備、相当の期間学校を欠席する児童生徒に対する教育の機会の確保、日本語指導が必要な児童生徒の教育の充実、ICT等を活用した県立高校における魅力化等の推進		●児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で1人1台端末を使用（ほぼ毎日＋週3回以上）させている学校の割合 小学校 49.8% 中学校 41.4% ➡ 80% （R9） 県立高校 48.3%
教職員のICT活用指導力	格差解消、更なる底上げ、レベルアップ等学校の教職員の資質の向上 ICT教育推進に向けた人材の確保等		●ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れている学校の割合 小学校 46.8% 中学校 43.1% ➡ 100% （R9） 県立高校 100.0%
ICTの環境整備	学校におけるICT活用のための環境整備（1人1台端末、大型提示装置、NW等）、教育データの利活用、教育DXの推進、デジタル教材等の普及の推進、個人情報の保護、情報セキュリティ対策等		
ICT推進体制の整備と働き方改革	学習の継続的な支援等のための体制の整備 情報化による校務の効率化（校務支援システムのクラウド化等）		

29